

県内施設見学報告

- ◇期 日:10月18日(木)
- ◇場 所:富山県内の企業、文化施設
- ◇参加者:第1学年探究科学科生徒80名
- ◇引率者:探究科学科担任・探究教育部教諭4名

第1学年探究科学科の生徒がクラスごとに分かれて、スギノマシン、不二越、榊田酒造店といった県内企業や、富山市郷土博物館、佐藤記念美術館を訪問・見学した。

高圧の水で刃物のように物体を切断するウォータージェットで有名なスギノマシンでは、本校OBの社員の方から業務内容や企業理念などの説明を受けた。スギノマシンは、海外の隙間市場で首位となる「グローバルニッチリーダー」を目指し、技術力を高めているそうだ。「自分のつくった製品が海外で必要とされ、使用されていることに誇りとロマンを感じている」という言葉に、生徒らは感銘を受けた。

その後、実験施設や展示スペースを見学した。実験施設では、実際にウォータージェットマシンで段ボールを切断した。また実際の作業で金属が切断される様子を目にして驚嘆の声を上げた。展示スペースでは、ウォータージェットに代表される「切る」技術だけでなく、「削る」「磨く」など、6つの「超」技術に関する展示品を見学し、スギノマシンの高い技術力を知ることができた。見学後の質疑応答の時間には、機械の仕組みや今後の事業展開などについて、活発に質問を行った。

不二越ではまず会社の歴史と現在の説明を受けた。不二越と言えば工具や部品生産のイメージが強いが、実際は多種多様なロボット事業、さらにはコーティングをはじめとするマテリアル事業など広い分野で活躍していた。中には世界トップシェアを誇る製品があると知った。

敷地内の工場や施設へ移動し、生産している製品の説明を受けながら見学した。多くの製品は部品であるが、それによって完成した物の性能が大きく変わる。不二越の得意とするベアリングという部品を例に挙げると、ベアリングは物の回転に関わるもので、自動車や電車の車輪に使われる。その摩擦が大きいと燃費が悪くなったり振動が大きくなったりするので、精密さが求められる。不二越ではそのような部品を大量生産していることに大いに驚いた。さらに航空機の部品や油圧機器などなど、時間内ではすべてを見て回ることができないほど多くの製品があり、その点で生徒達を驚かせた。またロボットの性能を間近に見ることができた。3mもある巨大なロボットが7台同時に素早く作業する様子、人とロボットが共に安全に作業を行える技術などを見て、不二越が世界をリードしていることを実感した。不二越の見学を通して工業に対するイメージがガラリと変わった。学んだことを活かして、これからの探究活動のヒントにしていきたいと思う。

榊田酒造店訪問では、本校のOBでもある榊田社長の案内で、榊田酒造の酒蔵はもちろん岩瀬地区を巡り、彫刻や陶芸、ガラス工芸など、岩瀬に点在する工房も見学することができた。かつてフランスを訪れた榊田社長は、美しいヨーロッパの街並みと、雑然とした日本の街並みとの落差に衝撃を受け、それ以降酒造りとともに地元岩瀬の街づくりにも取り組んでおられるそうだ。岩瀬の街を歩きながら、榊田社長から貴重なお話を聞かせてもらった。日本酒を通して、世界中に人脈を持つ榊田社長の、「面白いことをすれば面白い人との出会いが生まれる。」「人脈作りの秘訣は、誘いを断らないこと。」といった言葉は説得力があり、生徒達は熱心に聞き入っていた。地元への不満をそのままにせず、美しい街並みをつくろうと奮闘する行動力や、世界中の多種多様な人とつながる幅広い人脈など、大先輩の姿に憧れを感じた生徒も少なくなかった。生徒からは、「これまで知らなかった岩瀬の魅力を発見することができた。」「人生における大切な教訓を学んだ。」といった感想が聞かれた。身近な社会に対して、常に問題意識と当事者意識を持つことが大切なのだと感じた。



次に郷土博物館を訪れた。そこでは、学芸員の方から富山藩の幕末の動きと富山の町ができるまでの過程を説明してもらった。富山藩が幕末には新政府側についたこと、北陸でも戦いがあり多くの人が犠牲になったこと、その後の富山の様子などを知ることができた。今まではほとんど考えたことが無かった郷土の歴史に大きな関心を持つことができた。また、富山の城下が発展したのは、当時の当主が街道を意図的に富山城の近くに寄せたためという興味深い事実も知ることができ、当時の町の配置が現在の富山市街に残っていることもわかった。富山の城下町ができる過程にかなりの苦労があったことも知った。佐藤記念美術館には、中国やオランダから伝来した茶器があり、茶道も日本だけのものではないと知った。富山でも歴史を感じることができると知り、これまでなんとなく富山に住んでいたが、郷土に対する見方が変わる契機になった。今後富山についての探究心を大きなかたちにかえて行きたいと思う。

一日の見学を通して、自分の夢や信念をもち、様々な場所で活躍されている本校のOBと出会い、強い刺激を受けた。県内にこれほどエネルギーで、国内外で高い評価を得ている人や企業が存在していることを初めて知り、驚かされた。実際、「地元富山がより好きになった。」といった感想も多く聞かれた。また、文系・理系の垣根を越えて、幅広いことに興味を持ち、見聞を広めていくことの重要性も感じた。今後の探究活動でも、様々な視点から課題の解決に取り組みたいと思う。

